



A photograph of a modern, multi-story building with a glass facade and a large crowd of people in front of it. The building has a dark brown facade and a glass facade. The crowd is diverse in age and is clapping. In the foreground, there are large, blooming cherry blossom trees with pink flowers. The sky is clear and blue.

# 第5章 活用計画

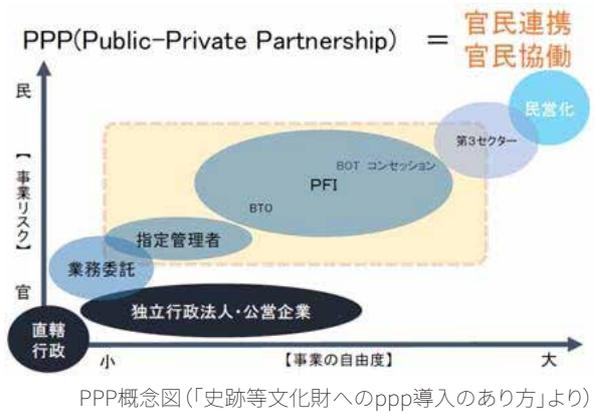
## 5.1 – 活用の方針

第1章で設定した整備の理念と6つの基本方針のもとで、国史跡鴻臚館跡が活用において取り組む方針について、以下のように整理します。

### (1) 活用における民間活力の導入

より多くの人に訪れてもらい、親しまれる施設となるためには、公共施設の枠を超えた多様なサービスの提供が求められます。そのためには、既存の整備や管理手法にとらわれず、新たな発想や効率性、スピード感などから民間活力の導入も重要な視点となります。

民間活力の導入方法としては、設計・建設段階から管理・運営段階までを一体的に検討することで、施設面や運営面の改善、憩いや賑わいの創出、魅力的な体験プログラムの提供、多様な来訪者の受入れなどの効果が期待されるPPP<sup>1</sup>等の方式が考えられます。ただし、史跡という性格上、歴史性に配慮した事業内容や施設のデザインに関する規定、収益事業を行う際の収益の配分に関する規約等を、事業者選定の際には十分検討し、周知する必要があります。



民間による展示活用の例 (福岡城南丸多聞櫓)



民間活力の導入の例 (2017年福岡にぎわいプロジェクト《一夜城》)

1 PPP (パブリックプライベートパートナーシップ) は、官と民がパートナーを組んで事業を行うという、新しい官民協力の形態です。水道やガス、交通など、従来地方自治体が公営で行ってきた事業に、民間事業者が事業の計画段階から参加して、設備は官が保有したまま、設備投資や運営を民間事業者者に任せる民間委託などを含む手法を指しています。

## (2) 歴史を知り体験する場としての活用

日本で唯一の鴻臚館跡の遺跡として、本物の魅力や迫力を知り、体験することにより、理解を深めてもらい、鴻臚館時代の文化や対外関係、また、国際都市福岡へとつながる都市の歴史を学べるわかりやすい展示・解説や、五感で体感できるプログラムを提供します。

また、教育機関等と連携した体験学習を拡充し、市民の**生涯学習の場**としての活用を促進することで、**地域に対する誇りとアイデンティティ**を醸成し、史跡の価値を**次世代へと継承**していくことをめざします。



古代瓦拓本体験

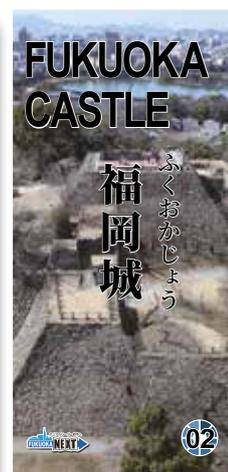


藍の生葉染め体験

### ● 鴻臚館・福岡城におけるわかりやすい解説の例



福岡城子ども石垣案内



多言語解説リーフレット

### (3) オープンスペース+サイトミュージアムとしての活用

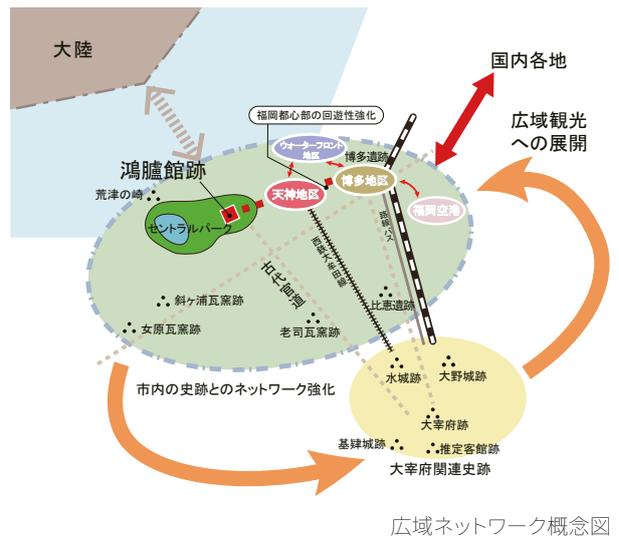
史跡地内は、豊かなオープンスペースを形成しています。これらのオープンスペースは公園の休憩機能やイベントサテライト機能を持っているため、これらの利活用も含め、歴史性はもちろん、安全性と快適性を担保した活用を行っていきます。

憩いの場としてのオープンスペースに、福岡の歴史・文化に出会うことができるサイトミュージアムの一体性を創出していくことで、**多様なニーズに対応**できるオープンスペースとして活用していくことを目指します。

### (4) 広域観光への展開を視野に入れた活用

大宰府史跡等の関連史跡や、豊かな歴史を市民・観光客が楽しむ「**博多旧市街<sup>2</sup>**プロジェクト」等と集客での相乗効果を促すため、お互いの来訪者がそれぞれの史跡や施設の情報を受け取れる仕組みをつくりまします。例えば、鴻臚館跡展示館の改修に合わせ、マップやデジタルコンテンツを活用した回遊システム、ガイダンス施設で鴻臚館から博多への貿易拠点の移り変わりを解説し、誘導を促す仕組みを検討します。

また、九州内、あるいは全国に所在する同時代の史跡と協力したプロモーションや連携イベントなどを実施することで、**広域ネットワーク連携**した歴史観光への取組を行っていきます。



広域ネットワーク概念図

### (5) ユニークベニューとしての活用

近年、**文化財をユニークベニュー<sup>3</sup>**としたイベントが、MICE振興や観光振興、地域振興の目玉として期待されており、すでに多くの都市で取組が始められています。例えば、旧石器時代の遺跡を保存した博物館である仙台市の地底の森ミュージアムでは、『第3回国連防災世界会議』のレセプション会場として利用され、9割近くの参加者が博物館への再来訪を希望するという成果が出ています。本市においてもMICE誘致時におけるレセプションなどの利用を広くPRして、促進していく必要があります。鴻臚館跡展示館については、文化施設や歴史的建造物等と同様に期待が高いため、今後、利便性や魅力を高める改修を施し、積極的な活用を行っていきます。



ユニークベニューとしての展示館活用  
(国際シンポジウムのレセプション)

2 日本最大の貿易港湾都市・博多の中心として栄えた地域「博多旧市街(オールドタウン)」には、中世に由来する歴史・伝統・文化が数多く伝わっています。歴史ある寺社が連なる静寂な街並みや、活気溢れる商店街の散策、博多の伝統工芸や伝統芸能との触れ合い、祭り好きで知られる博多っ子の暮らしや文化を感じられる体験など、福岡の旅がより一層深まるエリアです。

3 歴史的建造物、文化施設や公的空間等で、会議・レセプションを開催することで特別感や地域特性を演出できる会場のことを指します。誘致に大きな効果を発揮する各都市のユニークベニューは日本においても積極展開が求められています。(日本政府観光局HPより)

## 5.2 - 活用に向けた将来イメージと取組

ここでは、鴻臚館において、どのような来訪者がどのように活用することを想定するか、将来像の設定を行います。

以下に示す①～⑥では、第1章で示した基本方針をふまえ、想定される利用者と来訪目的を設定し、将来イメージを整理します。さらに、その将来イメージを実現するために検討すべき施策や取組について整理を行います。



将来イメージへの展開



鴻臚館時代の人々 (2017年博物館古代ファッションショーより)



## ① 歴史の価値や重層性が伝わる史跡

鴻臚館跡調査状況

### <主なターゲット>

地域住民、市民、学生

### <将来イメージ>

- 鴻臚館跡は、古代からこの地が世界とつながっていたことを示す「特別な史跡」として、**福岡市民の誇り**となっています。
- 展示館や史跡の各所で、鴻臚館の歴史の重層性や、交易・交流機能を分かりやすく解説しており、学習プログラムも充実しているため、**地域学習や修学旅行の受入**も盛んに行われています。



発掘調査の説明会

### <イメージの実現に向けた取組>

#### ●鴻臚館跡とその時代への理解を深められるプログラムの提供

- 鴻臚館の歴史への理解を深めるため、交易・交流機能の解説やプログラムの提供、貿易品の展示・解説等を行います。
- 史跡の価値を次世代へと継承するため、教育機関等と連携した体験学習の実施を促進し、市民の生涯学習の場としての活用も図ります。
- 国際都市福岡の成り立ちへの理解を深めるため、古代の対外関係や交流拠点としての都市形成を学ぶ展示・解説やプログラムの提供を行います。

#### ●「訪れる、巡る、学ぶ」をつなぐシステムの構築

- 来訪者がストーリーに沿ってスムーズに巡ることができるような解説サイン等について検討し、システムを構築していきます。

#### ●来訪者と新しい発見を共有できる場の提供

- HPやSNSを活用し、発掘調査の進捗状況や成果を発信していくとともに、調査や整備に合わせたガイドの仕組みづくりを行う。また、市民参加による体験発掘や復元建物の瓦運搬イベント等を行います。
- 調査の状況を公開できるよう検討します。調査時期でなければ見ることのできない本物の遺構や解説の中で、効果的に市民に学びの機会を創出します。



鴻臚館CGイメージ

## ②風景や機能の再現による新しい学びの場

### <主なターゲット>

市民、来訪者(特に歴史学習に興味のある来訪者)、学生

### <将来イメージ>

- 地形や建物の一部復元、AR・VRを活用した展示・解説により、**古代の福岡へタイムスリップ**したかのようなイメージを来訪者が持つことのできる場となっています。
- 解説だけではなく、実際の発掘現場の公開や、古代の様子を再現した体験型プログラムにより、ここでしか味わえない**特別な時間**を過ごすことができます。

### <イメージの実現に向けた取組>

#### ●古代の風景の再現

- 来訪者が鴻臚館についてのイメージを深めるため、往時の地形や建物の再現(地形復元、復元建物、建物模型等の作成)に加え、VRやARの活用や発掘調査箇所(関連施設ゾーン)、展示館における遺構展示、出土品の解説といった段階的に学習を深化させる学習プログラムを提供します。
- 解説内容に応じた視点場の整備に加え、解説板の整備等、ガイドと連動した仕組みの構築を行います。

#### ●鴻臚館の歴史・文化を体感できる参加体験型プログラムの実施

- 鴻臚館の歴史・文化を体感するため、「装う」(衣装の試着や解説)、「食べる」(出土品や記録等から想定される古代の食事の再現)、「遊ぶ」(遣唐使が滞在中に行った蹴鞠や双六等の遊びの再現)、「感じる」(陶磁器や香料などの「唐物」の再現)等をテーマとしたプログラムを実施します。
- 鴻臚館が外交使節や商人等の宿泊施設であったことにちなみ、簡易宿泊施設(グランピング)を通じて、鴻臚館に想いを馳せながら、前述した往時の食事や音楽等を楽しみます。

#### ●「本物」の魅力を伝える整備

- 日本で唯一の鴻臚館跡の遺跡として、本物の魅力や迫力を来訪者に体感してもらうため、現在行っている遺構の露出展示を継続し、価値を伝えていきます。
- 鴻臚館の歴史・文化を理解するための案内ルートを整備するとともに、案内ガイドの育成及び充実を図ります。



博多港に寄港したクルーズ船

### ③ 国内外へ開かれたゲートウェイ都市

#### <主なターゲット>

国内外の観光客

#### <将来イメージ>

- ・ 飛行機や大型旅客船で福岡にやってきた国内外の多くの観光客が、「異文化の交流拠点」としての鴻臚館を楽しめるような仕掛けや機能が備わっています。
- ・ 日本や福岡の歴史において特別な役割を果たしてきた場所として、国際会議のエキスカーションなどが誘致できる**質の高いおもてなし空間**が整備されています。

#### <イメージの実現に向けた取組>

##### ●多様な情報の体系化及び継続的な発信

- ・ 幅広い情報発信を行うため、HPやSNSなどを活用していきます。特に、SNSでは発掘状況やイベント情報などリアルタイムの鴻臚館情報を発信します。

##### ●観光交流の拠点としての整備

- ・ 観光交流の拠点としていくため、鴻臚館跡に限らない幅広い観光情報の提供や発信を、パンフレット等を用いて行っていきます。
- ・ 情報発信においては、「鴻臚館学」の構築を図りつつ、鴻臚館の価値や魅力など全ての情報を、来訪者の地域、国、年齢層などを踏まえて体系的に整理し、分かりやすい内容の提供と多言語化を行っていきます。

##### ●鴻臚館をユニークベニューとした文化イベントの実施

- ・ 鴻臚館をユニークベニューとした文化イベントを積極的に実施します。例えば、「鴻臚館時代絵巻」と題し、絵巻物等を題材に往時の風景や遣唐使・留学僧等の活躍の様子を映像化します。展示館や復元した北館の塀を使い、プロジェクションマッピングを行います。
- ・ 新羅の使節の歓迎に行われたとされる伎楽等の古代の芸能の公演や、唐物の交易でにぎわったことにちなんだアジア各国の雑貨等を集めた展示即売の見本市等、歓待機能や交易機能を再現します。



## ④ 関連史跡とつながる古代官道の出発点

大宰府天満宮

### <主なターゲット>

国内外の観光客

### <将来イメージ>

- ・ 鴻臚館跡と大宰府史跡、近隣の古代史跡は、古代日本「西の都」というテーマのもと、共通のマップやルートが整備され、**広域でのテーマ型観光**が楽しめるようになっていきます。
- ・ 市内外の関連史跡とのアクセスも強化され、情報発信もさかんに行われているため、**相互に来訪者を誘導**しあう相乗効果が生まれています。

### <イメージの実現に向けた取組>

#### ● 関連史跡との連携

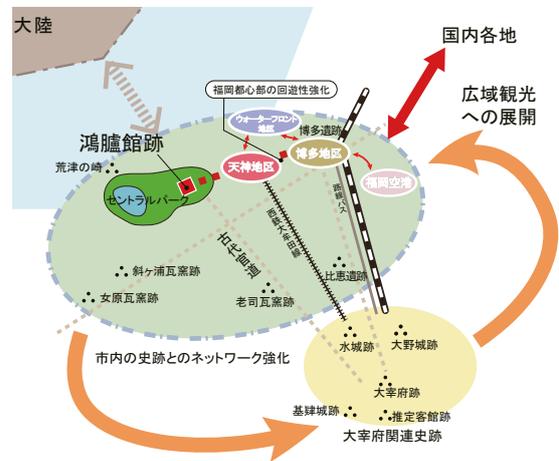
- ・ 大宰府史跡等の関連史跡と集客での相乗効果を促すため、相互のつながりをストーリーとして、展示館の展示内容や解説サイン等で示し、お互いの来訪者がそれぞれの史跡や施設の情報を受け取れる仕組みをつくりまします。
- ・ 鴻臚館を起点とした関連史跡への誘導を促すインセンティブを検討します。

#### ● 観光周遊ルートの構築

- ・ 大宰府や関連史跡にも親しむことのできる仕組みとして、鴻臚館から大宰府につながる古代官道を歩き、遣唐使が歩いた道のりに想いを馳せながら、大宰府や関連史跡にも親しむことのできる仕組みとして、古代官道をたどる観光ルートの整備を行います。
- ・ 市内外の関連史跡と連携した観光周遊へとつながるようするため、相互のアクセス強化や公共交通に関する情報発信を行っていきます。

#### ● 広域観光への展開

- ・ 広域において連携した歴史観光への取組を行っていくため、九州内、あるいは全国に所在する同時代の史跡と協力したプロモーションや連携イベントなどを実施します。



広域観光への展開概念図 (再掲)



## ⑤都心部のにぎわいを生み出すオープンスペース

展示館前の広場

### <主なターゲット>

地域住民、市民、来訪者(特にイベント参加者)

### <将来イメージ>

- ・ 鴻臚館、福岡城、平和台球場と、各時代でにぎわいの拠点であった鴻臚館跡は、整備により福岡都心の**新しい憩いの場**として広く利用されるようになっていきます。
- ・ 広場では結婚式やグランピング、**大型集客イベント**なども行われ、古代衣装をまとうことで歴史性を楽しむ人から、純粹にイベントを楽しむ人まで様々です。

### <イメージの実現に向けた取組>

#### ●憩いの場としての整備

- ・ 史跡地内や周辺の整備においては、木陰の保全を図った上での休憩施設の整備を行うことで、日常的な利便性や快適性の向上を図ります。

#### ●サイトミュージアムとしての機能の充実

- ・ 福岡城や大濠公園と連携した集客イベントにおける拠点サテライト会場としての情報発信を積極的に行い、鴻臚館跡の利活用へと結び付けていきます。

#### ●にぎわいの空間づくり

- ・ さくらまつり時に市民をターゲットとして、鴻臚館にちなんだイベントを実施する等、効果的な周知・PRを行い、公園地内の季節感を活かしたイベントの企画運営を行います。
- ・ 市民の日常利用に加え、現代の都市的な雰囲気と歴史性の両方を味わえる場所としての特別感を演出し、結婚式などのイベントへの対応も行っていきます。
- ・ 復元建物の整備は、史跡地内のオープンスペースと合わせて、鴻臚館の特性(交流・交易)を活かした現代のイベントとして表現していく中で、今後の福岡における国際交流や多世代間交流、地域間交流の場としてのシンボルとなるよう実施していきます。



イベント利用イメージ

## ⑥ 地域に根差した新しいランドマーク

### <主なターゲット>

地域住民、市民、来訪者（様々なニーズの来訪者）、国内外の観光客

### <将来イメージ>

- ・ 福岡の新しいシンボルとして、地域住民や近郊からの来訪者が、買い物や散歩の合間にふらりと立ち寄る憩いの場となっています。**地域住民**は、イベントや地域学習の場として親しみ、運営や管理に**ボランティアや助言者**として関わる市民も出てきています。
- ・ 天神・博多からのアクセスや案内が整備されているため、**国内外の観光客の立ち寄りスポット**としても人気です。

### <イメージの実現に向けた取組>

#### ● 鴻臚館の価値を伝える整備

- ・ セントラルパークのメインエントランスの一つとして、復元建物の整備や史跡全体を見渡す視点場の整備等の空間整備を行います。
- ・ 幅広い世代へと鴻臚館跡の価値を発信するため、教育機関との連携、生涯学習の場としての活用を行います。

#### ● 地域との連携

- ・ 地域の歴史・文化のシンボルとして市民に親しまれる史跡となることを目指し、日常の維持管理や協賛事業への市民参加等、史跡マネジメントへの市民参画を推進していきます。
- ・ 天神地区等、周辺地域で開催される地域イベントと連携していく仕組みづくりに取り組みます。

#### ● 都心部のネットワーク構築

- ・ サイン整備やHPにおける情報発信、交通網の強化等を通じて、天神・博多やその他交通拠点とのアクセス手段を明示し、誘客を図ります。
- ・ 各観光拠点におけるパンフレットの充実、広域でのマップ整備など、都心部の他のエリアとのネットワークを強化していきます。